

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2008年3月31日

86号

NP0 法人「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

バザーへのご協力ありがとうございました

さらに一步 前進を!!

グループホームで会議をしていたときの事です。ピ〜ンポ〜ン！とチャイムが鳴りました。「雨が降ってきましたよ！」とお隣さんの声。

職員たちは、おおあわてで、山ほどの洗濯物を取り込みます。

「よかった、ありがとうございます。」

こんな関係で暮らせるのは幸せなことですね。

* * *

グループホーム『よつばホーム』で行なわれた地域交流のバザーが無事終了しました。

今年は、いつもにも増して、地元・新吉田西部町会の皆さんからいろいろなご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。ボランティアの皆さんには、朝早くから応援していただき、テントを運んで建てていただいたり、売り場をお手伝いいただいたり、後片付けにいたるまでお忙しい中、本当にありがとうございました。

会員の皆様もお疲れ様でした。

大きな施設と比べると、グループホームはほんの小さな“お家”に過ぎませんので、そのまた庭先で行なうイベントにはおのずと限界もあります。また、その小さいながらの存在を知っていただくためには、何ができるかという悩みもあります。

グループホームについてはいろいろな考え方もあり、ごく自然に静かに住めばいいというのも本当だと思います。しかし普通の住まいである一方で、災害の時のことなどを思うと、ぜひ多くの人たちに知っておいてほしいとも思うのです。

ともあれこの日は、率先して隣接する駐車場をあけて下さったり、入居者も一緒に売ったり買ったりコーヒーを飲んだり... お母さんの同級生たちが遠くからそろって応援に来て下さったり... 感激も多い一日でした。

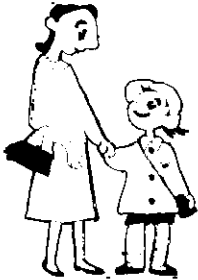
* * *

一步一步の前進のなかで、グループホームが地域の一員として定着していけるように、これからも頑張りましょう。

時の流れに思う事

横浜市社会福祉協議会障害者支援センター

地域コーディネーター 清水 恵子



私たちの社会はめまぐるしく変化しています。数年のうちに生活環境が大きく変わっていきます。

便利になったと思う反面その便利を便利と感じるまでの不便さ。もしかしたら永遠に便利と感じられずに暮すことになるのかも．．．と近頃思います。

毎日の暮らしは、安心して生活している実感があることです。先日、地域訓練会の集まりに参加しました。幼児から高校生までが一同に介してそれぞれの門出を祝うものでした。成長した子供たちを見て、初めて会った頃を思い出していました。

あの頃の子ども自身の混乱は言うまでもなく、たくさんの不安を抱えていた家族。それを支えてきたのは、同じ悩みを抱えた家族でした。それこそが訓練会の大事な役割と改めて感じたひとときでした。

訓練会の活動がスタートしたのは昭和48年。障害のある我が子が当たり前で地域で生活する事を願って運動した結果でした。あれから30年以上、時代が流れ環境が変わろうと我が子の将来を願う気持ちは決して変わるものではありません。子供たちが大人になる頃、世の中は一体どうなっているのか、私には想像が付きません。

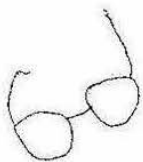
だれでもが暮らしやすい、生きやすい環境を作る事が障害のあるひとたちの暮らしを守る事になるのです。

よつばホーム運営委員会開催

3月21日（金）新吉田町西部町内会館で、よつばホームの運営委員会が開催されました。

職員から、現在の活動状況の説明があり、訪問看護や医療との連携、第2よつばホーム3名の入居者につき、ヘルパー制度の一部重度訪問介護への変更の報告などがありました。また、来年度の予算について会計から提案し、原案どおり承認されました。尚、19年度の決算および監査報告は、次回の運営委員会で審議されます。

その他、防災関連について、地域の住人として、防災訓練にも参加できるよう、町会の代表の運営委員に要請。これから検討していただく事になりました。



めがねの声

■ 慣れることは嬉しい事です・・・

さくらが 咲きました。花を見ていると 心があかるくなりますね。

私は養護学校を 卒業してから 神奈川県立の七沢リハビリセンターの更生施設に1年と2ヶ月入りました。このときの 先生から 今年の 1月にメールが来ました。なぜ クループホームを作ったか 私が 入ってよかったと思う事などを知らせて下さいと 書いてありました。

皆さんにも知っていただいてもいいかなと思って書いてみます。

* * *

私は グループホームに入って 4月から4年になります。

やっと 慣れてきて 皆 私の話すことが解ってくれるようになりました。

ヘルパーも安定してきたので 家みたいに 過ごしています。昼間はデイサービスに通って帰ってからは 「たわわ」のめがねの声や 手紙のした書きをしたり パズルなどをしたりしています。慣れてきたことは うれしいことです。

入った頃は わからない微熱が しばらく続きました。母や職員や友たちが 皆で心配してくれましたが 今はだいたいなおりました。

私のグループホームは 私ですが 皆4人とも 重度の障害者です。

障害者たちの家では次第にお母さんたちが お風呂や日常の介護が 大変になるので、「すっかり弱くなる前に 家族の近くのとこで」と考えて 作りました。

私は 入る予定ではなかったのですが 人数の関係で急に入ることになりました。

本当は 家にいて 一人になっても家で暮せるようになるために 母と友たちのボランティアたちとを考えて いろいろなところで泊まりや 自立の練習をしていました。

七沢リハビリセンターでも 自立の勉強をしていました。グループホームに入るのは少し複雑な気持ちでしたが いまは 少しよかったと思っています。

たんだん 母が 忙しくなったり、父が重病で倒れたりしたので『グループホームに入っていて 良かったね』と言っています。

昨年 活動ホームの 仲間のMさんのお母さんが 突然重病になって 入院しました。Mさんは とても 重い障害者です。はじめは 横浜療育園に緊急に入りました。

でも 長くいることは 出来ないのです 入れる施設をさがしたのですが 近くにはなくて山梨県の病院に 入りました。そこも1か月で退院して別のところへ移ります。

* * *

重い障害の人は、多くの人の手を借りなければなりません。でも なかなかすぐには理解してもらえないので、みんな家族が元気なうちに 家と同じように暮せる場所を用意することが とても必要だと思います。

大原友子

今月のよつばホーム

よつばホーム

3月29日は毎年恒例になった『地域交流バザー』がありました。

当日は天気恵まれみんな楽しんだようです♪

(みんな日ごろの行いがいいので・・・ ○
(≥▽≤)○)

さて、バザーの準備はみんな大忙しです。そして入居者のみんなも準備に大忙しです^^

勢津子さんは、当日の天候や花粉情報をチェックし、花岡さんは「いらっしやいませ〜！」とフランクフルト売りの練習をしています。

次郎さんは、当日の入居者と介助者のパーー決めて満足そうです。

藤田さんはバザーに備えて体調を整えています。そんな準備のかいあってか、みんなそれぞれバザーを満喫したようです^^天候に恵まれたそれだけでバザーはほぼ成功したと言っているでしょう。そしてこの日の夜はみんなグッスリ眠れたことでしょう・・・♪

お手伝いくださったボランティアさん、テント設置していただいた地域の方々、ありがとうございました。*:・' ☆*:・また来年もよろしくおねがいします*:・' ☆*:・



第2 よつばホーム

気づけば桜の時期になりましたね。第2 よつばの玄関先のチューリップも可愛く咲きはじめ、春を感じさせてくれます。

3月と言えば...?と女性入居者と話をしていました。富岡さんとは、やっぱりお花見?散歩も気持ちいいから、みんなで弁当持って出かけたいね(^^)と盛り上がりました。花粉症のスタッフにとっては厳しいかな!?

大原さんにとって3月は、さよならが続くからちょっぴり悲しい時期とのこと。年度が変わり、卒業、進学などでスタッフがかわったり、環境が変化したりすることが多いからです。

でも4月になればまた出会いの季節です!!「初めまして。これからよろしくお願いします」と新しいスタッフもやってきます。また今までとは違った雰囲気になり、慣れるまでは大変だけど、きっと楽しい生活になることでしょう。

